

一人ひとりの暮らしの発展に、UBE。

もっと一人ひとりの暮らしが豊かになるように。

もっと社会が豊かになるように。

私たちは独自の技術と

フロンティアスピリットで

豊かな社会を創造していきます。

With

UBE

With

UBE

新しい社名のもと、
持続可能な社会に
貢献するモノづくりに
挑戦していきます。

当社は1897年に「匿名組合沖ノ山炭鋳組合」として創業して以来、機械、セメント、化学へと事業を拡大し、1942年に各事業会社が合併し「宇部興産株式会社」として、80年の歴史を紡いでまいりました。

しかしながら、昨今の事業環境は変化のスピードが一段と速まっており、各事業がその特性に応じて自律的・機動的に企業価値の向上を図っていかなければ持続的な成長は困難になっています。このような中、機械事業、セメント事業をそれぞれ分社化し、2022年4月より、当社本体は化学事業の会社となりました。今後一層のグローバル化を進めるとともに、エネルギー負荷の高い事業構造から地球環境問題の解決に貢献するスペシャリティ事業へ舵を切っていくため、これを機に社名を「UBE(ゆーびーいー)株式会社」へ変更いたしました。

新たな社名を旗印に、UBEグループは常に変化に挑戦するとともに、モノづくりを通じてさまざまな社会課題に対するソリューションを提供し、持続可能な社会の形成に貢献していきます。

今後も皆様の温かいご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

UBE株式会社 代表取締役社長

泉原雅人



UBEグループ 経営理念

技術の探求と革新の心で、
未来につながる価値を創出し、
社会の発展に貢献します

UBEグループ タグライン・ブランドストーリー

2022年4月、当社は商号を宇部興産からUBEへと改め、化学事業の企業として新たな歴史を刻み始めました。これを機に、当社の提供価値や今後目指す姿を表現したタグラインと、その背景にある思いを表すブランドストーリーを制作しました。

UBE Transform
Tomorrow
Today

今日、この瞬間は、明日へと続いている。
私たちが話したこと、考えたこと、行動したこと。
すべてが、明日の世界を形づくる。
今日を変えれば、明日を変えることができる。

私たちUBEは、サステナブルな明日のために、
地球環境問題の解決に挑む化学の会社へと舵を切りました。

時代の変化に応えるフロンティアスピリットと、
独自の技術力によって、環境貢献型の製品やサービスを開発。
社会が直面する課題の解決をリードし、
豊かな暮らし、地球環境を支えています。

Transform Tomorrow Today

今日も、世界のどこかで。
創業以来受け継いできた「共存同栄」の精神とともに、
私たちは、明日を変える挑戦を続けています。

暮らしのあらゆる場面と地球環境をUBEが支えています。

UBEの製品は、自動車部品やデジタル家電、医薬品、家庭用品など暮らしに身近なものから、インフラ構造物や建築物などの社会インフラの整備まで幅広く活用されています。



コンポジット

ナイロンをはじめ、さまざまな樹脂と添加剤を活用し、お客様の要求に応じた高性能樹脂を提供します。FCVの高圧水素タンクライナー用樹脂や、自動車軽量化に寄与する製品を開発し、多彩な用途で独自の付加価値を提供します。



ナイロンポリマー

独自の連続生産技術により安定した品質と幅広い製品を提供します。優れたバリア性と強度から食品包装用フィルムに使用されており、フードロス削減。リチウムイオン電池包材にも採用されて環境負荷を低減します。



カプロラクタム・硫安

カプロラクタムはナイロン6の原料として使用され、その製造工程で生産される硫安は、窒素肥料として世界各地で農業を支えています。大粒硫安は散布効率が良くドローン施肥等、スマート農業への展開も期待されています。



ファインケミカル・工業薬品

高純度硝酸や高純度カテコール、高純度DMCなどを半導体製造プロセス向け薬液原料やリチウムイオン電池用電解液原料として供給し、デジタル化に貢献する数多くのケミカル製品を提供しています。



高機能コーティング

車載シートなどに使われる人工皮革や環境負荷の少ない水系塗料などの原料となるPCDやPUDを主力製品とし、グローバル市場を牽引する高付加価値環境貢献型製品を生み出しています。



フェノール樹脂

優れた耐熱性・耐久性・難燃性・接着性というフェノール樹脂の特長にお客様のニーズに応える新たな機能・特徴を付与した製品を提供。高機能品として高い特性が要求される半導体用途向けに製品展開しています。



ポリイミド

ポリイミドは原料のBPDAを自社で製造し、高い耐熱性・電気信頼性を持つワニス、フィルム、パウダーがLCD・OLEDディスプレイ、モバイル機器などで使われています。



チラノ繊維

UBE独自の技術により生まれた「チラノ繊維」は、1,000℃以上の高温にも耐え、航空機の燃費改善につながる部品材料の強化繊維として活用が期待されています。



分離膜

独自技術を活かしたUBEの分離膜。CO₂、H₂、N₂、除湿などの分離膜が、グリーンエネルギー、防爆、産業用途などに利用されています。



窒化珪素

UBEの窒化珪素は、独自のイミド熱分解法を用いて製造される高品位粉末です。自動車・航空機などに活用されています。



医薬

化学会社ならではの有機合成技術を活かした創薬(自社医薬)や、医薬品の効能のもととなる原薬・中間体の製造を通じて、医療分野のさまざまなニーズに応えています。

環境貢献型製品・技術開発

UBEは、ISO14001:2015改訂版に記載の「自然環境が組織に及ぼす影響」の項目を基に社内ガイドラインを規定。

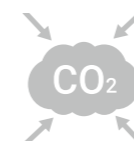
- (1) 使用段階でCO₂排出低減に貢献する製品の提供
- (2) 顧客のサプライチェーンにおけるCO₂削減への貢献(バイオポリマー、リサイクル・再生化学製品の提供)に取り組んでいます。

1 ライフサイエンス



生物多様性に配慮しつつ、バイオマスなど天然資源の原料活用の開発・実用化に取り組んでいます。

2 サステナビリティ



資源循環技術開発による脱炭素社会およびサーキュラーエコノミー実現に取り組んでいます。

3 エネルギー管理



断熱、放熱などの省エネルギー技術開発による脱炭素社会の実現に取り組んでいます。

UBEでは、それぞれの研究拠点で 新規事業創出や地球環境問題の解決につながる 技術開発に取り組んでいます。

UBEの化学事業を支えてきたコア技術と外部技術の融合により、更に「強みのある技術」を生み出し、スペシャリティ事業の拡大・強化と新規事業創出につながる研究開発活動を行っています。

主な研究拠点

みらい技術研究所 (千葉地区)

研究開発領域として「ライフサイエンス」「サステナビリティ」「エネルギー・マネージメント」の3領域を選定し、研究開発活動に取り組んでいます。



大阪研究開発センター(堺地区)

「マーケティング&イノベーション」をコンセプトとして活動している大阪研究開発センターは、パフォーマンスポリマー&ケミカルズ事業部の研究・開発拠点です。タイ・スペイン・米国の製造・開発・営業拠点との連携を図り、グローバル展開を意図した環境対応型の高機能製品の開発を進めています。事業領域にとらわれない研究者同士の交流から生まれる、新規材料の創出やアプリケーション開発を通じてお客様の製品開発・技術課題解決に貢献しています。

医薬研究所(宇部地区)

医薬品については、UBE単独で行う自社研究と、製薬メーカーとの協力体制のもとで行う共同研究による創薬研究を行っています。社会に貢献する革新的な医薬品を世に送り出すために常に変革と挑戦を続けています。

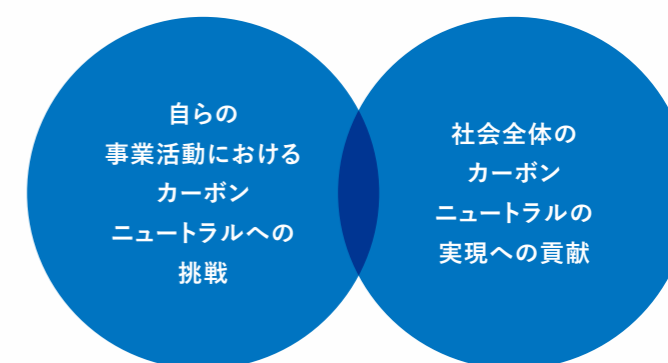


UBEでは、さまざまな サステナビリティへの取り組みを通じて、 社会に貢献しています。

私たちは創業の精神である「共存同栄」とサステナビリティ基本方針にもとづき、サステナブルで皆が豊かに暮らせる社会の実現に向けて一人ひとりの従業員がSDGsや社会貢献に取り組んでいます。

UBEグループ 2050年カーボンニュートラルへの挑戦

UBEグループは、2021年4月26日、「UBEグループ 2050年カーボンニュートラルへの挑戦」を宣言しました。脱炭素社会をリードするソリューションプロバイダーとして自らの事業活動から排出される温室効果ガス(GHG)の実質排出ゼロに挑戦するとともに、環境に貢献する製品・技術に関わる研究開発の推進とイノベーションの実用化により、社会全体のカーボンニュートラルに貢献していきます。



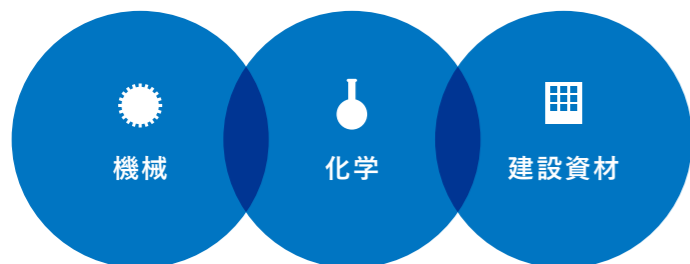
マテリアリティと貢献するSDGs

地球環境問題やUBEの歴史と現在の状況から、UBEグループの持続的な成長に重要な影響を与える成長・環境(E)・社会(S)・ガバナンス(G)の4項目のマテリアリティ(重要課題)に対して重点的に取り組んでいます。

	マテリアリティ(重要課題)	UBEグループの取り組み	貢献するSDGs
成長	スペシャリティを中心とした化学事業の成長	安定的に成長できる事業体制の構築	3, 7, 9, 13
環境	地球環境問題への挑戦	脱炭素社会の実現に向けた取り組みをサプライチェーン全体で実施	7, 12, 13, 14, 15
社会	成長と革新を担う人材の採用と育成	幅広い視野を持った多様性のある人材を重視	5, 8
ガバナンス・経営基盤	経営基盤の強化	経営理念と経営方針の刷新、大規模な組織改革	12



UBEグループは それぞれの分野で多様化する お客様のニーズにお応えしています。



UBEグループではこれまでに培ってきた化学、機械、建設資材の各分野の独自の技術と豊富な実績ノウハウを駆使し、お客様のご要望に総合力でお応えするとともに各分野における新たなビジネスの創造、価値の提供を目指していきます。

主なグループ会社

宇部マクセル株式会社

【事業内容】
リチウムイオン電池用セパレーターに関わる生産、販売、技術開発および研究開発を行っています。



<https://www.ube.co.jp/maxell/>

UBE エラストマー株式会社

【事業内容】
合成ゴムおよびその原材料の研究開発、製造、販売を行い、世界各地に製品を供給しています。



<https://www.ube.co.jp/elastomer/>

宇部エクシモ株式会社

【事業内容】
独自の樹脂高度加工技術を活かした樹脂製品や合成繊維、複合材料などの製造、加工、販売サービスを提供しています。



<https://www.ube-exsymo.co.jp/>

宇部フィルム株式会社

【事業内容】
家庭用ラップや産業用フィルムなどプラスチックフィルム製品の製造・販売を行っています。



<https://www.ube.co.jp/ubefilm/>

UBEマシナリー株式会社

【事業内容】
ダイカストマシンや射出成形機をはじめ、各種産業機械の製造・販売・アフターサービスを展開しています。



<https://www.ubemachinery.co.jp/>

UBE三菱セメント株式会社

【事業内容】
セメント事業やその関連事業である生コンクリート事業、石灰石資源事業、環境エネルギー関連事業などを展開しています。



<https://www.mu-cc.com/>

UBEは、創業の日から今日まで フロンティアスピリットを原動力に 成長し続けています。

1897年	山口県宇部の炭田を開発するために、地元の人々が出資して結成した組合からUBEは始まりました。 ■ 1897年 匿名組合沖ノ山炭鉱組合設立*
1910年代 1940年代	社会が求める新しい事業を次々に創出し、UBEの礎をつくりました。 ■ 1914年 匿名組合宇部新川鉄工所設立* ■ 1923年 宇部セメント製造株式会社設立* ■ 1933年 宇部窒素工業株式会社設立* ■ 1942年 上記4社(※)を合併して宇部興産株式会社設立
1950年代	第二次世界大戦後は、事業再建や拡大・高度化に速やかに取り組み、社会の近代化に貢献しました。
1960年代	石油化学事業への進出や原料転換など、エネルギー革命への対応を積極的に展開しました。
1970年代	石炭利用再開や、医薬などの新事業を本格化させると同時に、不採算設備の改善も推進しました。
1980年代	円高不況の中、技術開発や事業拡大を着実に進め、スペシャリティ事業の基礎を築きました。
1990年代	創業100年を迎え、これからの安定した収益構造実現に向けて、財務基盤改善とグループ経営強化に注力しました。
2000年代	新興国の台頭など、世界規模での競争激化を受けて、新たな成長戦略を積極的に展開しました。
2010年代	他社との協業や事業統合などを通して、新たなパラダイムに対応する新生UBEの礎をつくりました。
2020年代	グローバル化の推進と、地球環境問題の解決に貢献する、化学主体の会社へ変化していきます。 ■ 2022年 建設資材事業を「UBE三菱セメント株式会社」に分社化 UBE株式会社に商号変更



沖ノ山炭鉱新鉱



UBE YouTube
公式チャンネル



UBE YouTube公式チャンネルです。
最新テレビCMなどを視聴できます。



<https://www.youtube.com/@UBEchannel>